「学習支援強化のための３年計画」の３年目：創想館改修

吉井由希子（よしいゆきこ）
（理工学メディアセンター）

理工学メディアセンターでは2008年から3年計画で学習環境の整備に努めてきた。最初の2年間の成果は，入館者数という最も分かりやすい数値に表れた。2010年度の入館者数は過去最高の276,954名を記録し，取り組みを始める前の2008年度と比較すると約10%もの増加率であった。（1, 2年目の取り組みについては，本誌16, 17号の報告記事を参照していただきたい。）本稿では3年目となる2010年度に実施した，創想館1階の改修について報告する。

改修の目的は，ここにコミュニケーションの場としての機能を持たせることであった。それも単に話ができるというだけでなく，データベースセミナーやサイエンスカフェ等のイベントにも活用できるような場である。また，2010年度より活動を開始したS-Circleの相談窓口をこのフロアの一角に設置していたが，そこを正式な活動場所として整備したいということもあった。

一方で，ソファで新聞を読んだり，1人で勉強したりしている常連の利用者の居場所も維持したかった。創想館1階では，広々とした空間で窓いっぱいに広がる四季折々の景色を楽しむことができ，おそらく当センターの中で最も居心地の良い場所でもあるのだ。そこで，空間を壁で仕切るようなことはせず，フロア全体をうまく再配置することで，1人でくつろぐ人，グループで勉強する人，相談する人などが共存できるような空間を目指すことにした。それぞれがプラスに作用し合って，フロア全体が活性化することが期待された。

改修後，入口近くでは話ができ，奥にいくほど静かになるような空間配置となった。全体的に明るい雰囲気になるよう，しかしグループ学習室ほどポップにはせず，落ち着いた印象も残すように心掛けた。S-Circleの「コンサルテーションスペース」は，オープンでありながらも独立したスペースとして機能するよう，半透明のパーティションとカーペットの色でスペースの境界を表現した。「学習エリア」は，場所を広めにとり，それぞれの目的に合わせて自由な使い方ができるよう，分割しても使える移動可能な机を設置した。そして学習エリア奥をくつろげる空間とするため，ソファとラウンジ資料（一般雑誌・一般図書・新聞など）を設置した。

現時点では，概ね意図した通りに機能しているようだ。「学習エリア」は時期によって雰囲気が異なり，普段は1人で，試験前になるとグループで勉強する姿が目立つ。また，春にはこの場所でデータベースセミナーを実施したが，何をやっているのだろうと立ち止まる人も多く，図書館サービスをアピールする効果もあったのではないかと考えている。

S-Circleの活動等により，当センターが学生同士のコミュニケーションの場としても認識されつつあるようだ。大学図書館は教育現場のひとつであり，学生の学習支援を行う使命を持つ。この場所が，学習あるいは問題解決の場として多くの学生に活用されることを願っている。

学習エリア

S-Circle の「コンサルテーションスペース」

データベースセミナーの様子

コラム SPOTLIGHT

理工学メディアセンターのホームページには SPOTLIGHT という欄を設けている。その時々の活動報告やニュース，トピックを目につきやすいように，視覚情報として知らせることを目的としている。セミナーやガイダンスなどの募集のものが主であるが，新しく取り組んでいることの活動報告をおりまぜるようにしている。

図書館の役割が明確であったころには，自分たちでそれをアピールする必要はなかった。しかし今は，新しい役割を提案し自ら主張しないと，分かってもらえないときである。メディアセンターにおける広報の活動はますます重要なように思う。従来行ってきたサービスが広報によって活性化することも考えられる。

千村　文彦